

東電福島原発事故から3年以上が経過しました。事故原因の究明も確たるものがなく、汚染水問題の解決もほど遠いのが現状です。いまだに10万余の方が避難生活を余儀なくされています。そんなもとの、再稼働を急ぎ、輸出にのめり込む安倍首相の姿勢を許せません。



原発再稼働を止めて 再生可能エネルギーの活用を

東電福島原発



世界一安全な原発をとく、世界一厳しい安全基準とかいわれていますが原発は一度事故があればとんでもない状況に追い込まれます。スリーマイル島（米国）チェルノブイリ（旧ソ連）そして福島事故からも明白です。

原発は事故がなくても稼働すればするだけ増え続ける使用済み核燃料と高濃度汚染廃棄物。その処分方法は地中深く埋めるしかないのが現実です。国が全面に出て対策を考えるとの方針も出されていますが、国民に受け入れられるとは思われません。福島事故による放射能汚染の除染作業で出た汚染土の中間処理場についても住民の拒絶反応は強いのが実態です。



除染作業で出た
行き場のない汚染土

こんなにある再生可能エネルギーの種類

太陽光発電 風力発電 バイオマス 水力発電 地熱発電 太陽熱利用
雪氷熱利用 温度差熱利用 地中熱利用 その他



北野のり子

川西市議員

再生可能エネルギーの活用
に力を尽くします。

再生可能エネルギーの潜在能力は高い

- ☆日本の電力供給能力の10倍
- ☆原発（54基）の発電能力の40倍

日本共産党参議院議員井上哲士さんは、2011年7月7日の委員会で、環境省の委託調査では、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの潜在力が、約21億キロワット(KW)にのぼると試算していることを紹介し、「日本の電力供給能力の10倍。原発(54基)の発電能力の約40倍だ」と強調。昨年5月には、経済協力開発機構(OECD)が「日本は豊富な自然エネルギーを潜在能力に持ちながら、導入が遅れている」と勧告していることも紹介し、「潜在能力も、最先端の技術もある。これを生かしてこなかった政治に問題がある。原子力に依存し続けて自然エネルギーへの転換に本格的に取り組んでこなかった」と強調しました。

川西民報

2014年5月号外2
発行 日本共産党
川西市委員会
電話 792-2164

次号で川西での再生可能エネルギーの活用について議会で質問したことなどをお知らせいたします。

北野のり子